

大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第4次）」案に関する意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

- 1 計画等の名称 大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第4次）」案
- 2 計画等の案の公表日 平成28年12月2日（金）
- 3 意見公募期間 平成28年12月5日（月）～12月26日（月）
- 4 意見の提出状況 60名、1団体 計61件
（提出方法：直接提出60件、電子メール1件）
- 5 提出された意見数 80件

※項目別意見数

項目	意見数
基盤課題A	21件
基盤課題B	5件
基盤課題C	28件
重点課題①	0件
重点課題②	6件
計画全体について	20件
合計	80件

6 提出された意見に対する市の考え方

※同じ趣旨のご意見等はまとめさせていただきました。また、一部要約させて頂いています。

(1) 基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援に対する意見（21件）

① 妊婦健康診査

意見等の概要	<p>No.1</p> <p>私自身も出産を経験し、第一子と第三子の出産が10年空きました。10年前と比べ妊婦健診の助成カードなど手厚くなっていることに驚きました。年々子育てに対する支援が手厚くなっている事に感謝しております。まだまだ経済的な事を考え、子どもの人数を考える家庭もあるかと思えます。産前産後は収入が減少したり、なくなったりするので、妊婦さんへの助成を引き続きお願い致します。</p>
市の考え方	<p>現在、妊婦健康診査の公費負担（14回、助成額合計9万5千円）を行っており、この取り組みは今後も継続してまいります。</p>

② 不妊治療費

意見等の概要	<p>No.2、3</p> <p>不妊に関する医療費の助成の継続は進めていってほしいです。友人は何度も高い治療費を払って治療して妊娠することができたが、二人目を考えたときに、やはり治療費が高いためあきらめたそうです。同じ様な思いの人はたくさんいると思うので、もっと充実していいと思います。</p>
市の考え方	<p>本市は、平成17年4月1日から体外受精・顕微授精（限度額10万円、通算5年間で10回まで）、平成24年4月1日から人工授精（限度額2万円、通算5回まで）の助成を行っております。平成25年4月1からは不育治療費助成制度（限度額30万円）も開始しており、年々助成の拡大を図ってまいりました。いずれの助成制度も年齢制限・所得制限は設けておりません。大田原市ホームページへの掲載、関係医療機関へのポスター送付を行い、制度の周知を行っております。今後も継続して周知してまいります。</p>

③ 赤ちゃん訪問

意見等の概要	<p>No.4</p> <p>乳児家庭全戸訪問の1回きりでは保健師さんとの信頼関係は構築しにくい。</p> <p>No.5</p> <p>我が家には年少、小三、小六の子どもがおります。大田原市の幼児、学童に対する助成、支援には大変有り難く思っております。市民の立場からしますと、保育料無償などにどうしても目が向いてしまいますが、愛あいプランを拝見しますと、市が子どもの成長に添って細やかな支援を計画し、じりじりと効果が出ていますことが見られます。私の第一子、第二子の時はなかった新生児を持つ家庭への保健師さんの訪問は良いと思います。任意ではなく全戸とし、私も三人目だし聞いてもらうことはないのではと思っていましたが、来ていただくと色々とお話したいことが出てきてすっきりしました。こちらは保健師さんのご負担が多いとは思いますが、続けて欲しいです。</p>
市の考え方	<p>市内に住所を有する、または他県・他市町村から本市に里帰りしている生後4か月未満のお子さんを持つご家庭を対象に、赤ちゃん訪問を実施しております。</p> <p>また、他県・他市町村へ里帰りしている方においても、里帰り先へ依頼をして、赤ちゃん訪問が受けられるような体制をとっております。</p> <p>訪問回数につきましても、必要に応じて複数回の訪問も実施しており、この取り組みは今後も継続してまいります。</p>

④ 乳幼児健康診査・教室

意見等の概要	<p>No.6、7 乳幼児健康診査ですごく時間がかかるので、別日を設ける等して待ち時間を少なくしてほしい。</p> <p>No.8 保健センターで月1回行われている乳幼児相談、月に1回だと、不安に思った事の相談がすぐにはできなかつたりして不安な気持ちがずっともやもや続いてしまうので、せめて月2回ぐらいあると助かります。行こうと思っただけで日もちを忘れて行けなかつたりしたので、もう一回あれば嬉しいです。</p> <p>No.9 首が座る前の状態で過ごせるところがあるといいなあと思います。離乳食も悩むことが多かったもので、健診の後など教室を開いたりしてくれると、もう少し気軽に学べる機会を持てるかなと思います。</p> <p>No.10 妊娠中の教室。男の人（お父さん）の教室。育児についての悩みなどを話し合える場。</p> <p>No.11 他市から引っ越してきましたが、大田原市の子育てに関する支援は手厚いと思います。「すくすく教室」などの講習は大変参考になり、今後も続けて欲しいです。</p> <p>No.12 私の娘は6歳ですが、3歳半健診で肥満外来を勧められ、今も経過を見る通院を続けています。通院をすることで親として子どもの健康を守るために様々なことをあらためて学んだり、生活習慣の見直しに気づかされました。やはり、子育てをする上で考え方や生活の仕方は家庭ごとに違いますが、情報を得たり見直すきっかけ作りをしていただくと有り難いと思っています。早い時期に健診で気づけるような形は良いと思います。親がもっと身近に情報を得たり、保育園などで行う保健指導が近道だと思います。親に具体的に知ってもらうためには、聞くだけでなく周りの親同士ディスカッションするなどの方法でもっと自分の子育てを見直すきっかけ作りがあるといいかなと思います。</p>
市の考え方	<p>乳幼児健康診査は、単に疾病・異常の早期発見の場にとどまらず、親子関係の構築や育児不安等に関する相談等、育児支援においても重要な役割があります。</p> <p>今後も個別に応じた保健指導や母子保健に関する最新の情報提供が行えるよう、事業評価、見直しを行い、また、必要に応じて医療機関等他機関とも連携しながら、今後の事業に取り組んでまいります。</p>

⑤ 生活習慣関係

意見等の概要	<p>No.13</p> <p>バランスの良い食事が子どもにとって良い事だというのは十分わかっているが、仕事から帰って食事を準備する時間も残業になれば、ありあわせで済ませることも多くなるので、バランス食が週2～3回となっても意識を持っているだけで十分だと思う。子どもにはたくさん食べてほしいので、親としてはどうしても好きなものを作ってあげたくくなります。</p> <p>No.14</p> <p>私も3人の子育てをしている中、規則正しい生活習慣づくりが上手くできていないのでおやつ選び方や食べ方等を改めて考えていきたいと思いました。そして、食事の大切さや早寝・早起きの大切さを伝え、規則正しい生活を習慣づけられるようにしたいです。</p> <p>No.15</p> <p>子育てに対する市の対応が良く計画されていると思います。大田原市は他の市町から見ると子育てにやさしい地域だと感じています。ただ、子育ての理想である「早寝、早起き、朝ごはん」はなかなか共働きの中では難しいところがあります。今後の行政の取り組みに多いに期待し、市民として協力していきたいと思います。</p> <p>No.16</p> <p>妊娠時から育児期、思春期までの様々な時期を網羅してサポートしてもらえ有り難いです。知識がなかったり、意識が低い母親でも、定期的なフォローが入ることで抜けることなく育児できる気がします。我が家でも課題ありの、「朝ごはん」や「就寝時間」についても取り組んでもらえるのも有り難いです。</p>
市の考え方	<p>本市においては、すべてのライフステージにおいて生活習慣病予防に取り組んでおります。</p> <p>特に母子保健はすべての子どもが健やかに成長していく上での健康づくりの出発点であること、また、子どもを通じて家族全体の生活習慣を見直すきっかけとなる時期であることから、今後も、子どもの時期からの健康づくりに取り組んでまいります。</p>

⑥ むし歯関係

意見等の概要	<p>No.17</p> <p>栃木県より大田原市のむし歯保有率が高いことの原因は？以前は歯科衛生士によるブラッシングの指導などありましたが、いずれの年齢の健診でも歯科ブラッシング指導を継続したほうがいいのではないのでしょうか？子ども自身の歯磨き指導と母親の仕上げ磨きのくせによる磨き残しの改善の目的で。</p> <p>No.18</p> <p>勤務地のある大田原市の方が子育てしやすい市だと思っています。我が家の2歳の娘は、家では全くお茶、水などを飲まなくなっていました。やはり虫歯にならないかが心配なので、虫歯予防の取り組みに力を入れてほしいと思います。</p>
--------	---

市の考え方	<p>大田原市の乳幼児のむし歯保有率が高い原因として甘い飲み物、おやつの内容、おやつをとる時間のリズム、食事バランス等の生活習慣の影響が考えられます。</p> <p>そのため、乳幼児健診においては、バランスのよい食事とおやつの内容やとり方、水分補給について等の正しい知識を普及するために、パネルの掲示や、集団指導、個別相談でのパンフレット配布等を行っております。</p> <p>また、各健診において、歯科衛生士が年齢に応じた歯科指導や相談（ブラッシング指導等）を行う等、時期に応じた取り組みを実施しており、今後も継続してまいります。</p>
-------	--

⑦ 予防接種

意見等の概要	<p>No.19</p> <p>風疹に関しては子どものワクチン接種のみならず、成人、特に成人男性の抗体の有無並びにワクチン接種への呼びかけをもっとすべきです。(母親の抗体チェックの時に父親もチェックして抗体がない夫婦への接種機会の啓蒙)</p> <p>No.20</p> <p>7歳と5歳の子を持つ親ですが、お陰様で子の育てにくさを感じることはあまりありません。予防接種の助成金はとても助かりますが、病院以外で受けられる場所があればうれしく思います。小児科は予約が取りづらく、時間がかかってしまうし、他の病気をもらってきってしまう恐れもありますので。</p> <p>No.21</p> <p>周りの市町村に比べ、子育て支援が手厚いのは大田原の強みだと思うので、予防接種助成など継続していただきたいです。</p>
市の考え方	<p>成人男性の風しん抗体検査及び、風しん予防接種につきましては、妊娠届の際に県で実施している抗体検査の紹介や市で実施している予防接種費用の一部助成について案内を行っております。今後も担当課と連携しながら、予防接種等に関して対象者への周知徹底に努めてまいります。</p>

(2) 基盤課題 B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策に対する意見 (5件)

① 人工妊娠中絶

意見等の概要	<p>No.22</p> <p>人工妊娠中絶は特に若年者の相談（悩み相談・出産後のアドバイス、おそらく未婚女性も含まれると思うので）、0120の電話相談を24時間体制で受けるシステムなど。</p>
市の考え方	<p>平成28年度から子ども幸福課内に設置した「子育て世代包括支援センター」は不妊や望まない妊娠等も含め、ひとりで悩まないよう妊娠・出産・育児に関する様々な相談ができる窓口であるため、今後も幅広く周知してまいります。また、必要に応じて他機関と連携を図り、より良い支援ができるよう対応してまいります。</p>

② 学童期

意見等の概要	<p>No.23</p> <p>日本人の子どもは世界で一番寝る時間が遅いという話を聞きました。定期テスト前は勉強の負担が一気にかかるため、就寝時間が11時、12時になってしまうこともあり得るでしょう。科目をずらして1週間に2科目ずつなど、子どもの負担を減らすことはできないでしょうか。運動部に関しても、希望しない子にとっては大きな肉体的・心理的負担となると思います。勉強も運動ももちろん両方大事ですが、睡眠時間を削ってまで両立させなければならないことなのか、疑問を感じます。成長期の子どもが、誰もがのびのびと力を伸ばせるような環境をもっと整えてあげる必要があると考えます。</p> <p>No.24</p> <p>妊娠・出産・子育てに対し、明確な課題を設けて、それを計画、実行していくという愛あいプランについて、ある程度は共感できました。ただ、妊娠・出産に比べ、小中学生期に対しての課題からの計画に対してはもう少し検討すべきところがあるのではとも感じました。全国他市町村の子育てに対する取組等で効果の上がっているもの、取り組みをどんどん取り入れてほしいと思います。</p> <p>No.25</p> <p>思春期健康教室ですが、初潮年齢が低年齢化していますし、女子だけでも小5年から始められたらいいのではないかと思います。大学生の学生のような、児童と年が近い方に協力を仰ぎ、「お姉さんが妹たちにお話しする」感覚で入ると、とっつきやすいのではないのでしょうか。市や学校の職員の方の負担を減らせるのではないのでしょうか。あと、私も自分でお産するまで小さい赤ちゃんを抱く経験がありませんでした。この教室とセットで経産婦さんと赤ちゃん、妊婦さんから話を聞いたりできる機会があればもっと命の大切さが実感できるのではないのでしょうか。</p> <p>No.26</p> <p>小中学生の調査もなされたので小・中学校の保健指導に役立てられるといいですね。(資料を学校に送る)</p>
市の考え方	<p>学校の部活動は、生徒それぞれの可能性を伸ばせるように支援しているところです。</p> <p>ご指摘のありました生活リズムでは、ご家庭の考え方や環境等も大きく影響しており、教育委員会と連携することはもちろん、今後もより一層、乳幼児期からの生活リズム、食生活の普及啓発に力を入れ、ご家庭全体で、規則正しい生活習慣が確立していくよう支援してまいります。</p> <p>思春期健康教室については、各学校において文部科学省の学習指導要領に基づき、保健体育や宿泊学習前にあわせて実施する等丁寧に取り組んでおります。また、子ども幸福課と教育委員会が連携を図り、命の大切さ等を含めて児童・生徒の学びが深められるよう、各学校や子どもたちの状況に応じて工夫しながら、外部講師による思春期教室を実施しております。</p> <p>小学校・中学校で実施した健康に関するアンケート調査については、各学校で活用するため養護教諭の希望もあり、各学校に調査結果を送付いたしました。</p> <p>その他、ご指摘の内容につきましては、今後各事業を取り組むうえで参考とさせていただきます。</p>

(3) 基盤課題 C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくりに対する意見 (28件)

① 職場との連携

意見等の概要	<p>No.27、28</p> <p>子どもに対しての対策はとても多く、親として助かったり安心できることも多い。その一方で働く親への対策があまりとられていないように感じる。待機児童の問題もあるため、子育て期間中は勤務時間を短くする等、親が子どもに対して時間が取れるよう企業との連携をとり、より子育てしやすい環境づくりを望む。</p>
市の考え方	<p>職場における子育て環境の整備については、市単独の取り組みでは効果が見込めないことから、国・県・事業所との連携による取り組みを推進してまいります。</p> <p>子ども幸福課においては、毎週水曜日に延長窓口を実施し、19時まで母子健康手帳の交付等子ども幸福課関係の業務を実施しております。また、市民課、国保年金課、会計課、税務課、収納対策課においても同様に実施しております。今後は延長窓口につきまして、市民の方へ広く周知してまいります。</p>

② たばこ関係

意見等の概要	<p>No.29</p> <p>育児期間中の父親の喫煙率があまりにも高い。妊娠することで母親は意識の改善をはかることができるが、父親の認識が甘いのでは。高校生レベルでの「喫煙開始をすることでの将来への影響」を男女ともに指導する機会をもっと作ってほしい。父親学級でのさらなる指導を検討してください。</p> <p>No.30</p> <p>禁煙推進と受動喫煙の危害防止は極めて重要です。特に子ども・青少年の喫煙防止だけでなく、子ども・青少年・妊産婦を受動喫煙の危害から守る根本的施策が基本的に重要です。</p> <p>1 子どもたちの健やかな出生、またその成長、及びその親、妊産婦等の健康と病気予防のために、受動喫煙の危害防止対策、及び親や妊産婦・家族が喫煙している場合は禁煙を促す根本的施策をよりいっそうよろしくお願いします。</p> <p>喫煙、受動喫煙のタバコに、非燃焼の加熱式タバコ等の新型タバコも含めることが必要です。理由は、紙巻きタバコと同様にニコチンが含まれる。したがって、吐き出す呼気にもニコチンが含まれ、受動喫煙による急性心筋梗塞などのリスクがある。紙巻きタバコと同様に種々の発がん性物質が含まれる。したがって、受動喫煙による肺がん・口腔がん・胃がん・腎臓がんなどのリスクがある。(紙巻きタバコと同様の健康警告表示が義務付けられていることから判るように)紙巻きタバコと違い、発生する有害物質が見えにくい。したがって、周囲の人々は受動喫煙を避けられず、かえって危険である。</p> <p>受動喫煙にはタバコ煙付着物の発散(第三次タバコ煙)による健康影響が近年問題となっていますので、それへの留意が必要です。</p>
--------	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意見等の概要</p>	<p>2 乳幼児～思春期の受動喫煙は、子どもの心身の健康阻害要因となるだけでなく、成長後も影響を残すとのエビデンスが蓄積してきています。例えば胎児期から 18 歳までの受動喫煙の暴露は、生殖期年齢の女性の精神的健康度を低下させる(抑うつ発症)リスクになることもわかってきました。それらの資料を基に、親や妊産婦・家族が喫煙している場合は禁煙を促す根本的施策・啓発がよりいっそう望まれますし、また、下記のように受動喫煙のある飲食店などに子どもたちを連れて行かない啓発や対処も望まれます。</p> <p>3 乳幼児・保育園・幼稚園の園児の父・母・同居家族に喫煙者が多いと報告されています。保育園の前などで喫煙をしている母親などの姿は、珍しくありません。家庭での対策や啓発はもちろん重要ですが、その知識普及・周知のためにも、幼稚園や小中学校を含め、これら保護者への禁煙促進の働きかけや啓発・講習等に焦点を絞ったプログラムが望まれます。</p> <p>4 子どもだけでなく、保護者、職員、子ども施設の外来者の健康を受動喫煙の危害から守るために、また子どもたちに禁煙の模範を幼少期より示すためにも施設敷地内の全面禁煙の徹底・遵守、また施設(園、学校、子ども関連施設等)外における催し等でも、その遵守・徹底をお願いします。</p> <p>5 とりわけ、通学路や道路、また食堂・レストランなどのタバコの煙から子どもたちや妊産婦を守る根本的施策が不可欠です。「分煙」では受動喫煙の危害を到底防ぎ得ないので、「分煙」は入れるべきではありませんし、市民(及び利用者)は、受動喫煙の危害リスクのある施設及び喫煙所に、子ども・未成年者・妊産婦を同伴し立ち入らせてはならない旨の義務付けをする。かつ施設管理者にも同様の義務付けを定める。</p> <p>飲食店やサービス業界等に、受動喫煙の健康リスクの以下のような明示の義務付け、勧奨が必要で有効かと思えます。(1)「受動喫煙によるタバコ煙は非喫煙者、とりわけ子ども・未成年者・妊産婦に害を及ぼします。」(2)「受動喫煙のリスクのある場所に、子ども・未成年者・妊産婦及び非喫煙者は立ち入らないでください。」(3)出入口などに「子ども・未成年者・妊産婦及び非喫煙者の出入りはしないでください。」</p> <p>6 子ども・青少年が、受動喫煙に曝され、特に家族や飲食店などで吸わされている状況のままに、喫煙防止を教育しても、効果は限られています。いうまでもないことですが、自分たちが本当に守られていると感じてこそ効果が上がるのですから、そのような社会環境を作っていく根本的施策(国・県等への要請を含め)へのより一層のご尽力をよろしくをお願いします。</p> <p>※今進められている国の「受動喫煙防止法の制定」を見越して、管轄内公共的施設・場所の屋内全面禁煙の自主的实施が望まれるので、市町村出先や関係機関を含め、特に子ども・青少年関連施設を最優先に、周知・要請をよろしくをお願いします。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">市の考え方</p>	<p>喫煙対策につきましては、「第4章 基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」の「課題と施策」において記載しているとおり、これから親になる年齢層の方のいる大学等や、産科医療機関等と連携し、取り組みを推進してまいります。</p> <p>また、頂いたご意見につきましては、庁内の他課とも情報共有し、今後各事業に取り組む際参考とさせていただきます。</p>

③ 地域の子育て支援

No.31

B Pプログラム参加者です。参加中は毎週集まりがあったのでよかったのですが、プログラム終了後はやる事がなくなってしまい、落差もあって産後うつのような感じもなりました。今、子育て支援センターに通うなどしていますが、初めてセンターに行く際に少し勇気が要りました。自宅で子どもと二人っきりでふさぎこんでる母親は少なくないと思います。難しい問題ですが、そういった母親をサポートしてくれるサービスがもっと充実していったらいいなと思います。

No.32

支援センターのイベントが少なく感じます。他市に住んでいた時には子どもの年齢に合わせた日があり、アレルギーを持つ子の母の会、24歳以下で出産した人、35歳以上で出産した人が集まる会など母親目線で見てもらえることもあり、友達を作りやすく、自分は一人だと思いませんでした。支援センターに何度も顔を出していますが、同じ月齢のお友達に出会ったこともなく、周りはみんなお兄さん、お姉さんです。同じ悩みや喜びを共有できるよう、同じ状況のママが集まれる環境を作ってほしいです。

No.33

B Pプログラムに参加したが、同じくらいの月齢のお子さんが多くとてもよかった。

No.34

トコトコの一時的利用について。料金も安く利用しやすくとてもありがたいが、一回に預けられる時間をもう少し長く（4時間では短い）、1日に利用できる人数（枠）を増やしてほしい。（預けたくてもいっぱいになることが多いので。）

No.35

子育てに関しても、気軽に話ができる場や機会が増えると安心して子育てに向き合えるきっかけになると思います。旦那さんがいなかったり、実家が遠かったりで相談や頼みごとができない事もあると思うので。

No.36

子育てはマニュアル通りにできず悩むことが多い。特にその場面に遭遇して初めて悩むことが多いため、出産前に子育て経験者の話を聞く場があると安心できると感じる。

No.37

当園の子育て支援事業では、母の不安に寄り添う、傾聴する等をしてはいますが、精神的に支えてあげるのも大変だと思っています。今後ますます母が孤立しないような支援、支えてあげるような取り組みが必要になってくると思います。

意見等の概要	<p>No.38</p> <p>これまでの子育てが研究等で明らかにされ、今後の子育てのあり方が問われている中、親になった方々はこれまでの子育てで育ってきた方々です。大人になってから生活習慣や子育てを見直したくても、すぐにできる方は少ないと思います。又、相談できる相手がいなかったり、親自身のコミュニケーションの低下によって一人で子育てをすることで虐待が起きたりするのではと思います。話し相手になってあげたり、相談に行くことは良いことだと思いますが、人選に気を付けていただきたいと思います。</p> <p>親に求められることが多すぎて、子育てが苦痛になってしまう方もいらっしゃると思います。楽しさや喜びも知らせながら行えるといいと思いました。</p> <p>No.39</p> <p>10代の自殺死亡率について、栃木県は全国より低いことが分かった。まだまだ先の事のような気がするが、乳幼児期からの母子関係によって自己肯定感を高めることができるなら、今からほめたり、子どもの話をよく聞いて肯定したり、家の中での役割を決める等子どもたちと接していきたいと思った。</p> <p>No.40</p> <p>子どもが外でたくさん遊べるよう、公園などをもっと増やしてほしい。</p> <p>No.41</p> <p>子育てにやさしいまちづくりの推進の実現に、市民・市当局に力を入れていただきたいです。子育てがひと段落後、小学生の安心して学び遊べる場を作って頂きたい。お休みの日、スーパー等のゲームコーナーに小学生がたくさん出入りしているのを見ると胸が痛みます。</p> <p>No.42、43</p> <p>保育園を増やしてほしい。365日体制の保育園を作ってほしい。(飲食業に務めたいため)</p> <p>No.44</p> <p>保育園の入園の決定がもう少し早く決まるとありがたいです。</p> <p>No.45、46</p> <p>子育てをしながら働くうえでの支援に今後期待します。保育園に入れることを検討していた時期、内定の証明がないと事実上入園が難しいと聞き、(希望は一応出せるとの事ですが)断念したことがありました。</p>
	市の考え方

④ 経済的支援

意見等の概要	<p>No.47、48</p> <p>若者が大田原市に住み、大田原で結婚生活を送り、子どもを産み育てていきたいと思うようなもっと具体的なメリットがあるといいと思う。増々高齢化になってしまっていくのが分かっているのなら、子育て世代が住みやすく「もっと子どもを産みたい」と思うことがあればいいと思う。今、子育てをしてお祝い金やオムツ券などがあると安心して子育てできると思う。健診や予防接種などは充実しているが、やはりミルクやオムツなど乳児期に必要なものの援助があると助かります。高齢者のオムツ支給があるのなら子どもにもあればいいと思います。</p>
市の考え方	<p>本市における出産、子育てに関する経済的支援につきましては、「不妊治療費助成」「不育治療費助成」「妊婦健康診査費助成」「妊産婦医療費助成」「出産育児一時金」「児童手当」「子宝祝金制度」「チャイルドシートの補助」「子ども医療費助成制度」「養育医療」「育成医療」「多子世帯（3人以上）に対する幼稚園・保育園の保育料の減免措置」「学校給食無料」等を実施しており、年々充実してきております。ご指摘の内容につきましては、担当課とも共有し、今後各事業を取り組む際参考とさせていただきます。</p>

⑤ 医療機関関係

意見等の概要	<p>No.49</p> <p>産婦人科の病院や専門の病院（耳鼻科とか）が増えると助かると思う。</p> <p>No.50</p> <p>救急医療の受け入れが拡大することを願っています。夜間は担当の病院に連絡をしても受け入れがスムーズではありません。充実することを願っています。</p>
市の考え方	<p>市単独の取り組みでは効果が見込めないことから、国・県・医師会等との連携による取り組みを推進してまいります。</p>

⑥ その他

意見等の概要	<p>No.51</p> <p>独身が多い。出会いの場所がない。</p> <p>No.52</p> <p>「保育園、幼稚園での支援が大切になっている」とあるが、園では毎年のように保育士が減らされ矛盾を感じる。保育士、教諭の力量形成のための研修会等の実施も大切かもしれないが、給料を上げるなどをし、継続して働けるような環境づくりも考えてほしい。</p> <p>No.53</p> <p>大田原市の出生数が年々減少していくことへの対策を加速させることが重要。</p>
--------	---

	<p>No.54</p> <p>大田原市で出産・子育てを経験している中で母と話をする、昔に比べて補助などがあり、出産・子育てしやすい環境になっているんだと感じた。</p>
市の考え方	<p>「大田原市未来創造戦略」の「基本目標 3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の内容とも重なるため、担当課とも共有し、今後各事業を取り組む際参考とさせていただきます。</p>

(4) 重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援に対する意見 (6件)

① 「育てにくさ」を感じる親への支援

意見等の概要	<p>No.55</p> <p>子育て中に「育てにくさを感じる」支援について。核家族の家庭が増え、近くに相談できる人がいない家庭環境の中、大田原市の支援の充実が親としてとても心強いです。また、保健師、管理栄養士、心理相談員、作業療法士、言語聴覚士など相談に乗っていただけるところが心強いです。</p> <p>No.56</p> <p>子育ての育てにくさを感じる親に寄り添う支援では、子どもの年齢が上がるにつれ精神・運動・情緒の発達が著しくなり、育児の悩みも増えてきているため、気軽に相談できるところが近くにあると安心できていいと思います。</p> <p>初めての子は、いろいろな面で不安になってしまうことが多く、一人で悩みを抱え込んでしまう人も多くいると思うので、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間が取れたらいいと思います。</p> <p>No.57</p> <p>育児相談の充実、気軽にSOSを受け止められる体制を充実する。</p> <p>No.58</p> <p>発達障害の子を持つ親です。今現在、保育園、国福大のリハビリが主です。病院へ行くきっかけは保育園の先生との面談でした。ですがその前に(約1年半)自分でも発達の遅れが気になり市へ相談、言語聴覚士の相談を受けていました。なかなか判断しにくいと思いますが、そんな家庭にはその後の経過などを気にするなどあってもいいのでは？</p> <p>そして発達障害は早期発見、リハビリが有効であれば、2歳児もしくは3歳児健診の際に国福大の先生による話や面談があったら尚良いと思います。不安な親ほど病院に行きづらく感じている事もあります。市が積極的に支援し、より良い環境づくりになってくれることを願います。</p>
市の考え方	<p>本市では、子どもの健康・発達や育児に関して、乳幼児健康診査をはじめ乳幼児健康相談、すこやか相談等を実施し、個別の相談を行うとともに、母子健康手帳発行の際や出産後の赤ちゃん訪問案内の際に、各種相談窓口等について情報提供しております。今後も相談窓口の周知を図りながら、保護者の悩みに寄り添った支援ができるよう、関係機関とも連携して取り組んでまいります。</p>

② 5歳児健康診査

意見等の概要	<p>No.59</p> <p>幼稚園教諭をしています。5歳児健診の方も事前、事後指導等も随分連携がとれるようになってきており、保護者の方も相談やリハビリへの通所等への抵抗が少なくなっているように思う。小学校への連絡がよりうまくいくと良いと思う。リハビリが混雑していて予約がなかなか取れず、間が空いてしまって残念という保護者の方もいた。専門機関、専門職の方が増えてくれるといいと思う。</p> <p>No.60</p> <p>5歳児健康診査は全国的に見ても質の高い施策であり、今後もスムーズな就学に向けて継続して行っていただきたい。また、年長児巡回相談の結果も含め、お子さんの成長過程が小学校だけでなく、学童にも引き継がれることを望みます。</p>
市の考え方	<p>5歳児健康診査では、集団生活場面での行動・発達の問題を早期に発見し、必要な支援につなげるために関係機関と連携して実施しております。また、5歳児健診実施後おおむね半年後に事後確認、年長児において年長児巡回相談を実施しております。これにより、就学に向けて教育委員会とも連携して、一貫した支援体制が整いつつあります。発達支援のための療育については、市内や近隣の療育機関に恵まれていることから、適切な時期に精密検査や療育指導が受けられるようになってまいりました。また、児童発達支援として利用できる事業所も増えてきています。</p> <p>今後も関係機関と連携しながら、子どもの特性に合わせたよりよい支援ができるような体制づくりに努めてまいります。</p>

(5) 計画全体についての意見 (20件)

①計画全体に対する意見、計画の周知、文章・グラフなどの修正

意見等の概要	<p>No.61、62</p> <p>大田原市は子育て支援を推進し実施しており、子育てしやすい環境にあると思います。子育てしていると日常生活で精一杯であり、健診などの機会は改めて子育てを見直す良い場であると思います。さらに愛あいプランにより親、これから親になる方への知識の普及・啓発することで意識を高め、より良い子育て・子どもの成長を促すことができるのではないかと期待しています。</p> <p>No.63、64</p> <p>核家族化が進み、子育ての指南役が身近にいない家庭が増えていく中で、このように行政が様々な現状を細かく分析し、妊娠・出産・子育て等、その場面、場面でそれに合った支援を行っていただけることは、安心して生活できるという保証となり、心強く感じられました。この様な諸々の支援やサービスを知り、実際にサービスを受けたり活用している家庭は子育てや健康についての意識も高く、比較的問題なく過ごしているのではないのでしょうか。貧困や育児放棄の問題も共に考慮し、底からすくいあげるように支援していただけたら子どもたちの未来も更に輝かしいものとなると思います。</p>
--------	---

No.65

愛あいプランを読ませて頂き、実際のアンケート結果を目にする事により、今後、子どもの健康や育て方等を見直し、考えることが出来る。又、親自身の健康も考えるようになるのではと思いました。

No.66

細やかなデータが書かれていて大変参考になると思います。子育て支援についても手厚く支援されていると思いますが、何から何まで市や保育園・幼稚園が支援してしまうことは家庭での育児の機会を取り上げてしまうのではないかと感じました。本当に支援が必要なところに手が届きますとともに、過剰な支援にならないことも大切だと思います。

No.67、68

妊娠期～出産～育児～乳幼児～学童～成人と子どもたち一人ひとりが健やかに育つためのデータと細かい分析でとても見やすく分かりやすかったです。子ども達同様、保護者に対しても手厚く支援や情報提供などを促していく必要性についても勉強になりました。市民に対してうまく活用していけるとより良いと思います。

No.69

子育てする親、子ども、妊婦さんなど様々な目線で取り組みがあり、守られているなど思いました。また、細かいところまでアンケート結果がまとめてあり、分かりやすかったです。今後、様々な課題に向けて対策が実行され、さらに住みやすい市となれば良いと思います。

No.70

女性や子どもが中心に書かれていますが、ぜひ父親となる男性にも周知してもらいたいと思う内容でした。

No.71

正直、今現在大田原市の母子の状態がこのような状態になっているとは思いませんでした。10年計画といった長くて短いものを私たち大人が努力し改善していかなければ今後も変わらないと思います。市の方で保育園・幼稚園で保護者を集めて講習会を開催したり、地区の回覧等で周知した方がよいと思います。

No.72

各ステージごとに計画を立て目標、課題、施策とわかりやすく書かれていますが、正直自分にはどのように影響があるのかわかりません。なぜなら、与えることばかりで、市内に住んでいる人たちにどの様にしてほしいかが全く書かれていないからです。計画のデータや内容はとても信憑性があり、自分に知らない事が多く、感心いたしました。ただ、分析であり、そこから計画を作っても市内に住んでいる人たちが知らない環境になるなら宝の持ち腐れになってしまうと思います。計画の内容よりも市から発せられる情報が生活に影響を与えるという意識を親はもちろんの事、子どもにももたせる工夫が必要に思えました。紙ベースの周知より時代に合った電子ベースの周知も行うべきと考えます。また、市という存在を地域の人達にもっとフランクな存在であると認めさせる必要があると思います。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意見等の概要</p>	<p>No.73</p> <p>母子保健について幅広い事業を展開・実施されていると思います。今回の愛あいプラン策定にあたり、今までの実施・支援から得られた主要課題をまとめ、それに対する施策にも細やかな配慮を加え、母子に寄り添った内容であると拝見いたしました。いかなる課題においても改善に向けていくためには確実な周知が必要であると考えます。これだけ多くの事業が展開され、支援制度もあることを確実に把握できている方は少ないのではないのでしょうか。例えば子育て期から学童期以後まで流れをもって考えなければならない食や生活リズムについて悩む保護者に対して、定期的にその時期に必要な情報を発信しできる限り全員にその内容を知って頂く、それによって子どもたちの健康づくりに繋がる等、一部分での実施で終わらないような対策をとって頂くことで、母と子、双方にとって意味のある、より良い計画となりますよう期待致します。</p> <p>No.74、75</p> <p>市の様々な取組みがわかりとても良いと思います。一冊の小冊子にまとめるのも大変なご苦労だと思います。職業上出生率の低下が気になります。住みやすい、暮らしやすい、若い世代が安心して子育てできるような街づくりをしてほしいと思います。このような事業を行っていることを発信し、周知して行ってほしいです。</p> <p>No.76</p> <p>“「すべての子どもが健やかに成長していくうえでの健康づくりの出発点」としての計画”という趣旨の通り、母親の出産状況から乳幼児期、学童期、思春期、成人期ひいては子育て中の保護者に至るまで、細かく丁寧に調査し、現状と課題まで幅広い視点で作成されていると思います。1つ1つ分かりやすく書かれていますが、貧困家族の支援、子どもよりも自分の楽しみを優先させてしまう親に対するアドバイスなど、もう少し深めてもらいたいと感じました。表やグラフでとても分かりやすく示されていると思いました。</p> <p>No.77</p> <p>日頃、子育てに関して、大田原市で保育園でお世話になることができ、感謝している母親です。とてもいいプランだと思いますが、日々の生活の中で周知度の低さだったり、子どもの事を考えるとこれで良いのかと思う場面に出会うことがあります。関わりにくい世の中ですが、少しでも笑顔の親が増えることを日々願っております。</p> <p>No.78、79、80</p> <p>グラフに色がついているともっとわかりやすい。第1章～第5章までであるが各章ごとに目次があると見やすい。第4章が長いので見づらい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">市の考え方</p>	<p>「愛あいプラン（第4次）」にかかわる意識啓発、情報提供の推進につきましては、「第5章 計画の推進体制」に記載のあるとおり、今後推進してまいります。</p> <p>文章、グラフ、全体的なレイアウトにつきましては、ご指摘の内容について可能な限り見やすいものになるように、修正を加えてまいります。</p> <p>「愛あいプラン（第4次）」の周知につきましては、概要版を作成し、「広報おたわら」に折り込んで、全世帯に配布いたします。また、市内保育園・幼稚園にも「愛あいプラン（第4次）」を配布し、広く周知してまいります。</p>

7 意見公募の結果を踏まえた修正箇所（抜粋）

大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第4次）」案【平成29年2月14日現在】

第4章 計画の主要課題に対する目標

基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

1 思春期の心と身体の健康づくり

① 人工妊娠中絶について

(※アンダーラインの箇所について追記しました。【意見等の概要No.22】また、施策にも同様の内容を追記しました。)

子ども幸福課内に設置した「子育て世代包括支援センター」は、不妊や望まない妊娠等、ひとりで悩まないよう妊娠に関する様々な相談ができる窓口として幅広く周知していく必要があります。

④ 思春期健康教室

(※アンダーラインの箇所について追記しました。【意見等の概要No.25】)

各小学校・中学校において文部科学省の学習指導要領に基づき保健体育の授業、あるいは宿泊学習前の事前学習等を利用する等丁寧に実施しているところですが、市としても外部の講師に委託して思春期健康教室を実施し、思春期保健に力を入れています。小学校6年生・中学生を対象に、系統立てて小学校では命の大切さを学び自分自身を大切にすること、中学校では思春期の心と体の変化、男女交際等について学び、将来の豊かな母性・父性の形成を培う内容で実施していますが、大学や病院の現場の助産師が講師となることで子どもたちの反応もよく、興味を持って学びを深めることができています。

基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

1 妊娠中の就労について

(※アンダーラインの箇所について追記しました。【意見等の概要No.27、28】また、施策にも同様の内容を追記しました。)

仕事をしながら妊娠・出産・子育てする女性が増加していることから、子育て期間中は勤務時間を短縮することができる等、妊婦健診や親が子どもと過ごす時間が確保できるような、妊婦や子育てにやさしい地域づくりが必要です。

職場における子育て環境の整備については庁内担当部署と連携するとともに、市単独の取り組みでは効果が見込めないことから、国、県、事業所との連携による取り組みを推進していきます。

2 子育て中の両親の喫煙

(※アンダーラインの箇所について追記しました。【意見等の概要No.29、30】また、施策にも同様の内容を追記しました。)

そのため、喫煙を開始する20代から自分の健康被害のみならず受動喫煙の周囲に対する影響を周知していく必要があることから、学校や企業と連携していくことが必要です。また、妊婦のみならず父親や家族に対しても胎児や子どもに対する受動喫煙の影響について周知する必要があることから、産科医療機関等と連携して取り組んでいきます。

大田原市 保健福祉部 子ども幸福課 母子保健係
電話番号 0287-(23)-8634 FAX 0287-(23)-7632